

ひがしの子

令和5年3月17日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 藤井 佐由美

いよいよ20日は修了式です。

ご卒園おめでとうございます。 1年間ありがとうございました。

たいよう組では、よく「子ども会議」と名付けて対話の時間を設けています。今までにも、「どうしてカナヘビのカナちゃんは逃げてしまったのか?」、「けんかはどうしたらなくなるのか?」、「死ぬってどういうことなのか?」などなど、子どもの意見を尊重して、一人一人の考えを聴くようにしました。答えのないことについての対話でもあるため、話が横にそれたり、誰かが言ったことから連想して元のテーマよりも別の方向で盛り上がりやすくなることもあります。でも、大切にしてきたことは、「子どもだから、分からないだろう…」と決めつけるのではなく、一人の人間として尊重し、真摯に子どもの意見を聴くようにしました。



少し前のことになりますが、「死ぬってどういうことなのか」を話し合ったときには、「もう生きられないってこと。」「死んだら心臓が止まる。」「もう会えなくなるってこと。」「倒れる。」「いなくなるってこと。」「などと答える子どもがいました。もう少し、突っ込んで「人間が死ぬってどういうことなんだろう?」と尋ねると、「死んだら天国へ行くんだよ。」「倒れて魂だけが天国に行く。」「地獄だってあるよ。」と伝えたい思いがあふれていました。そこで、「大切な人が死んだら、どんな気持ちになる?」と尋ねると、「泣く。」「悲しい。」と言い、前に『ずーっとずーっとだいすきだよ』の絵本を読んだことも影響してか、「大好きだよっていっぱい言っておきたい。」などと答えていました。そして、みんな少し神妙な顔つきになっていました。さらに「生きているってどういうことかな?」と尋ねると、「動いて、食べて好きなことができる。」「ご飯が作れる。」「虫とかプールとか好きなことができる。」と答え、「生きているってどんな気持ち?」に対しては、「嬉しい。」「楽しい」などの答えが返ってきて、みんな明るい顔に変わっていました。

どうですか!?子どもってこんなにもいろいろなことを考えているんですね。そして、こんなに表現したいという気持ちがあふれているんですね。

このように考えたり、伝えたりできるためには、日々心を動かす体験活動があることが重要で

す。だから、幼稚園では子どもの小さな心のときめきを教師が感じ取り、それを受け止め、広げ深める教育を日々実践しています。その中で、自分なりに思いを巡らせ、表現し、相手と分かち合う中で、新しい感じ方や考え方にふれることを通して、自分の価値観や考え方が育っていきます。

幼児期には、自分なりの答えを自分で見付けていく過程がとても重要です。私たち教師は、子どもの小さな願いをどうしたら叶えられるか、真剣に考え、向き合う姿勢が重要なのだと考えています。人は、自分でできたこと、やり切ったことに対して幸福感や達成感を味わうことができます。それは、大人である私たちも同じです。私は、教職員がONE TEAMである中に、担任自身が、子どもと共に自分で創り上げたクラスであることを実感することが大切だと考えています。それにより、教師も日々資質を向上することができるからです。(※これは、昨年度も同じことを書きました。)



なつめ組の子どもたちはアイドルごっこに夢中です。自分たちで楽しんでいた遊びの質の高まりを子ども自身が感じてきたようで、できるだけ多くの人に観てほしいという気持ちを抱くようになりました。私の所にも、「ねてき」と書かれたチケット持ってきて、一生懸命に宣伝していました。(一瞬「ねてき?」と思いましたが、「来てね」ですね。最高です。) なつめ組のテラスのライブ会場に行ってみる

と、ヘッドホン型マイクを付け、それぞれのカラーオーガンを身にまとい、表情は本日デビューを飾るアイドルさながらです。フォーメーションも考え、イントロでは縦一列で始まり、鮮やかな移動(しかも踊りながら・・・)、指先まで神経を使いしなやかに踊る子、少し伏し目がちに表情をつくる子、つばめを表現した手先を目で追いながら表現する子、首をかしげてポーズを決める子など、リフティングのようなステップを踏む子、それぞれの持ち味が出ています。少し気恥ずかしくて、横で見ていた子も、少しずつ少しずつフォーメーションに加わり、最後は、すぐ隣で仲間になって一緒に踊っていました。押し目当てに振るうちわもあり、「手振って」といううちわを向けると、ちゃんとファンの方を見て手を振ってくれます。ダンスが終わると握手会です。こあら組さんも喜んで握手を求めにきました。丁寧に握手をした後は、自己紹介です。一人ずつカラーや名前を紹介して、拍手喝さいをあげました。よくここまでイメージを共有して遊んでいるなあと感心してしまいました。

更に面白いのは、こあら組がメディアのように手作りのカメラを持って、踊っているアイドル達を撮影しているではありませんか…このシチュエーション伝わりますかね…切なくなるほど愛おしいとはこのことですね。カメラを作っている最中にライブが始まってしまったとのことで、一人の子は、「ここに穴があいてないから、まだ見られない…」としょんぼりしていました。カメラのレンズの反対側に穴が開いてないことを訴えていました。大丈夫だよ。明日もライブあるって告知があったからね♡ 翌日、紙とカメラを持参するこあら組。なんと、サイン



をもらうために紙を持ってきていたようです。確かに、昨日のライブでは、終わった後にサイン会があって、スチロールトレイに木の棒で、サインを書いているアイドルがいました。まあ、本当によく観察している子どもたちです。こんなふうに自然に影響を与え合い、刺激を受けてまた新しい遊びが始まっていくんですね。子どもたちからの最高の贈り物をもたらした気持ちになりました。

子どもたちも教師も自分のカラーで1年間を彩ることができたのではないでないでしょうか。保護者の方にとっては、どんな1年間でしたでしょうか。

保護者の方や地域の方の温かいご理解・ご支援のおかげで、幸せな日々を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

たいよう組のみんなには、小学校に行っても自分なりの答えを探し続け、見つけていってほしいと願っています。ずっと、ずっと応援しています。

こあら組、なつめ組のみんなには、これからも幼稚園生活の中で、遊んで、遊んで、とことん遊び込んでいってほしいと願っています。

一人一人の大切な未来を、自分の力で拓いていきましょう！



お知らせとお礼

★皆勤賞・精勤賞の表彰について

1年間欠席をしなかったお子さん、2日までの欠席だったお子さんに対して、社会福祉協議会長 森東支部支部長：小水井泉美さんより、皆勤賞・精勤賞の賞状をいただきました。該当のお子さんには、既に賞状をお渡ししました。

★1年間のお礼

お子さんの育ちを願い、職員一同、精一杯の愛情を注いで取り組んできたつもりですが、至らなかったことも多々あったことと思います。お子さんや保護者の方との関わりの中で、私たち職員も日々成長させていただきました。保護者の皆様のご理解、温かいご支援があったからこそ、このよき日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

たいよう組の保護者様は、今後は地域の方として幼稚園や子どもたちを支えてくださいますようお願いいたします。

なつめ組、こあら組の保護者様は、また4月からどうぞよろしくお願いいたします。

★修了式時の託児について

修了式の託児を希望された方にお知らせします。

10:00の修了式が終わった時点で、速やかに託児のお子さんを迎えに行き、下のお子さんも一緒に集合写真や学級懇談にご参加ください。

修了式の託児ボランティアにご協力くださりありがとうございます。託児ボランティアの方は、託児のお子さんを引き渡しした後、在園児は、こあら組にて終業式を行いますので、こあら組に行くよう促してあげてください。その後、10:50には園庭に出て親子で一緒に花道を作って修了児を送ってあげてください。

★創立50周年記念行事について

令和5年度5月27日(土)には、岐阜市立岐阜東幼稚園創立50周年記念行事を開催いたします。雨天時は28日(日)に順延します。現在のたいよう組(令和5年度1年生のみ)は、令和4年度に撮影したドローンでの人文字を上映するためご招待します。是非、親子でお越しください。詳細は、本日お便りが配布されておりますので、ご確認ください。

在園児は、幼稚園行事(保育日)となりますので親子でご参加ください。今から予定して下さるとありがたいです。在園児のみ、雨天時には、29日(月)まで順延いたします。詳細は、本日配布されたお便りをご覧ください。

